

## 令和7年度 第25回「白山市ミライ会議」会議概要

※会話の順番を入れ替えたりまとめたりしています。  
※制度などの説明は、会議開催時点のものです。

日 時:令和7年11月21日(金) 19:00～

場 所:宮保コミュニティセンター

参加者:10名



### ◆ 実行委員会を設けて事業を実施しており、防災プロジェクトを立ち上げました

(参加者)

宮保地区の現在の状況は、社会体育大会、「みやぼ祭・夏」、文化祭などの地域全体で取り組む大きな事業については、これまで通り実行委員会を立ち上げ、話し合いながら改善を重ねて取り組んでいます。

生涯学習関係も、公民館時代から各種団体と共催してきた事業をそのまま継続しています。担い手不足や負担増を避けるため、新たな部会は設けずに進めています。今後、運営に課題が出れば、より多くの方が参加できるよう話し合っ改善していきます。

昨年度は防災プロジェクトを立ち上げ、講習会や訓練を主体的に実施しています。災害の少ない地域ですが、万が一に備えて継続していきます。今年の防災訓練は文化祭に合わせて実施したことで相乗効果があり、多くの方に来てもらって非常に良かったです。また、海岸清掃も行い、予想以上に多くの方に参加してもらえました。

今後の課題として、地域コミュニティ組織としての認識が役員の中で十分に浸透していない点が挙げられます。役員は各種団体からの選出ですが、任期が1、2年と短い団体が多いため、理解が深まりにくい状況です。

今年度は、まちづくり推進アドバイザーである金沢大学の篠田先生の指導でワークショップを開催しました。様々な意見が出て成功しましたが、出された意見をどう具体化していくかが課題です。地域の皆さんが感じる課題の解決に向け、一度にあれもこれもはちょっと難しいので、話し合いながら少しずつ進めていきたいと考えています。

#### ◆ ワークショップで出たコミュニケーションの場を設けるアイデアを形にします

(参加者)

ワークショップには若い女性や子どもから大人まで、幅広い年齢層の方に参加してもらえました。「この地域に足りないものは何か」「どう発展させるか」など、さまざまな意見を聞くことができて、今後に繋がっていくような、とても有意義な時間でした。

(参加者)

私もワークショップに大賛成です。宮保地区には以前から世代間交流の事業がたくさんあります。やはり少子化、高齢化が心配で、今やっている事業がそのままできないようなところまで来ているのではないかとこのところ、ワークショップで事業や活動について話し合えば、宮保地区の将来像が見えてくるのではないかなと思います。

ただ、子育て真っ最中の方からは「町内会費が高い」という、会長としては頭の痛い意見もありました。行政には引き続き、子育て支援の充実をお願いしたいです。

(市長)

子育て支援では、アプリを使った簡単な申し込み手続きや、親子・里親ショートステイ、育児相談の場、おむつクーポン、保育所の第2子目以降無償化などを実施しています。ご存知かと思いますが、18歳までの医療費無償化も先がけて行っています。

学校給食については、小学校は無償化していませんが、物価高騰分は市で数千万円を負

担っています。中学校の給食費は無償化しました。こうした取り組みが十分に伝わっていない面もあるため、シティプロモーション推進課を通じて周知を図っていきたいと思います。

財源については、皆さんの税金だけでなく、ふるさと納税による自主財源の確保に力を入れています。去年は約 5 億円集まりましたが、他自治体では 10 億、20 億という例もあります。市民の皆さんの負担を増やさずにサービスを充実させるため、さらに伸ばしていきたいと考えています。国の方でも物価高対策や子育て支援の拡充が予定されていますので、それらと合わせてしっかりと取り組んでいきます。

(参加者)

ワークショップで特に盛り上がったのは、「居酒屋が欲しい」という話題です。

かつては商店もありましたが、時代の流れとともに閉店し、地区内に飲食店やコンビニ、大きな企業もありません。そのため、みんなが集まってコーヒーやお酒を飲みながら語り合える場所が欲しいという意見が多く出ました。

(市長)

宮保ではコミュニティセンターでサロンはやっていませんか。

(参加者)

コミュニティセンターではやっていません。

(市長)

地区によっては、コミュニティセンターで、集まってコーヒーやお茶を飲みながら会話をしたり、時には講師の話の聞いたりというサロンをやっています。

他に、美川では小学生が空き家対策について考えて、空き家を皆が集う場所にとということで、カフェとして営業してみるという取り組みをしていました。

(参加者)

思いとしてはコミュニケーションの場を設けたらどうかということで、実現に向けて話を進めています。篠田先生とのワークショップの総括の会議でも、居酒屋をやったらどうかという提案があり、みんなでやってみようという意見になりました。

他地区では、祭りなどの事業の際に、昼は子ども会や老人会、夜はお酒が好きな大人が集まるなど工夫していると聞きました。「居酒屋」という言葉には語弊があるかもしれませんが、要はみんなが集まって楽しく語れる場を試みてみたいと考えています。

- ◆ 宮保ならではの行事を大切にしながら、新しい企画も実行しています
- ◆ ここ数年消防団の団員確保が厳しくなっています

(参加者)

ワークショップではここにしかないものというような話もしました。

宮保地区独自の事業として「菊花展」があります。昨年からは文化祭と同時開催にしました。以前は独自開催でしたが、同時開催にしたことで相乗効果があり、見学者が増えています。また、夏の「宮保あさがお展」も行っています。老人会や壮年会と一緒に土づくりをし、苗を配付して育ててもらい、千代女あさがおまつりにも出品しています。

他地区ではこうした活動が減っていると聞きますが、宮保ではせっかく残っているので、大切に続けていきたいです。

新しい試みとしては、今年初めて地区全体で海岸清掃を行いました。宮保には小川・上小川海岸があります。従来から子ども会などが夏休みに行っていますが、それとは別に、海岸を持つ地区として保全しようと企画しました。10月の悪天候の中でしたが、約50人が集まりました。今後も継続するか相談しながら進めていきます。

ただ、どの活動も参加者の高齢化が進み、若い人の参加が減っているのが一番の課題です。若い人が参加しやすい工夫をみんなで考えながら、継続していきたいと思っています。

(市長)

若い人の参加はどこも課題ですね。消防団や子ども会など、苦勞されていることはありませんか。

(参加者)

どの団体も同じだと思いますが、消防団の団員確保は課題です。現状、松陽分団の地域では各町内の協力があり、推薦で確保できていますが、宮保地区でもここ数年は厳しさが増しており、限界を感じています。

個人的な意見ですが、団員を男性に限る必要はないのではないのでしょうか。防災をメインに考えれば、「消防団の仕事」と限定せず、「我が町のこと」として地域全体で協力できる人を募る形でもいいと思います。

◆ 子どもが楽しめるイベントができればと思います

◆ 金城大学や近隣4地区との連携で事業に広がりが生まれています

(参加者)

子育て世代には正直なところ菊花展などはあまり興味がわきません。若手世代が関心を持つのは、やはり「子どもに関わること」です。

昔、徳光で花火やフェスがあったのを思い出します。地区単独で抱え込まず、周辺と連携して大きなイベントができれば、もっと盛り上がるのではないのでしょうか。子どもたちに「川北に行けばいい」と言われるのではなく、地元や近くで楽しめるイベントがあればいいなと思います。

(市長)

子どもたちが地域の行事や祭りを楽しんでいるのはいいものですよね。柏野の夏祭りには松任高校の生徒が参加していました。また、金城大学との連携も進んでいて、この辺りだけで

はなく、鳥越一向一揆まつりへの参加やトレインパーク白山での保育の学生の読み聞かせなど、大学側も学生の学びの場として地域活動に熱心に取り組んでいます。こちらでも交流はありますか。

(参加者)

宮保でも、事業や笠間駅周辺の花植え・除草作業に金城大学の学生が手伝いに来てくれました。文化祭では笠間中学校の生徒が、防災コーナーやいっぷくコーナーのコーヒーのボランティアをしてくれて好評でした。

最近新しい家が増え、若い世帯や子どもたちの声で賑やかになっています。ただ、昔からの住民と新しい住民との間に世代差もあり、少しギャップがあります。新しい方にも祭りなどに参加してもらい、地域に慣れてもらうことで活性化につなげたいと考えています。

(参加者)

金城大学とはイベントのチラシを送っていただくなどの交流があります。今年の文化祭では、松陽小学校校下の4地区(宮保、笠間、加賀野、柏野)で連携し、スタンプラリーを行いました。子どもたちが3つの地区の文化祭を回ると、参加賞がもらえたり、抽選会にエントリーできたりといった企画です。

結果は49人中16名が達成しました。正直なところ、もう少し多くの子どもたちに来てほしかったのですが。

(市長)

周りの地区や大学などとも連携してやっつけらっしゃるんですね。先ほどの花火で言うと、横江の虫送りの時に花火をあげています。このコミュニティ組織の中で若い人たちの意見を取り入れるというのは、どのようにされていますか。

(参加者)

私はワークショップに参加していませんが、青年部などのリーダーが出席していると思

います。本来であれば、そこで出た意見を下の世代に伝え、同世代で議論した内容をまた上に上げるといった繰り返しが重要です。そうすることで課題が明確になっていくと思いますが、現状はそのプロセスが弱いです。

リーダーだけで話が終わり、1、2年で役員が交代すると「そんな話もあったね」で終わってしまうことが多いのが正直なところです。共通の認識として「あったらいいな」ということを、なぜ誰も実行しようとならないのか。それぞれの集まりでもう一度揉んでみる必要があると思います。

(市長)

子ども会では、子どもたちが地区での活動を楽しんでいる、思い出に残っているなどあると思いますが、どのような様子でしょうか。

(参加者)

コミュニティセンターでは、週末に子ども向けのワークショップや、父の日・母の日のプレゼント作りを企画していますが、近年は習い事があるため参加が難しい子どもも多いのが現状です。夜に集まるわけにもいかず、参加する子どもが固定化してしまいます。

ただ、夏祭りは他地区からも多くの子どもが来て楽しそうでしたし、今年のさつまいも掘りは参加者が多かったです。以前は春に申し込みと支払いが必要でしたが、今回は無料で苗植えをしていない子も参加できたため、行きやすかったのだと思います。

## ◆ デジタル化で情報共有がスムーズになれば活動が活発になると思います

(参加者)

地域コミュニティ組織の行事や活動をもっと効果的に周知する方法について、地区の公式LINEなどを活用してはどうかと話し合っています。

大学生や高校生など、自分で情報を知りたい人が登録すれば、回覧板を見ない層にも情報が届くようになります。情報共有がスムーズになれば、活動もより活発になると思います。

(市長)

デジタル化については、加賀野地区では LINE に詳しい方がいて、連絡や施設予約を LINE で行ったり、他地区のコミセンに講師として呼ばれたりしています。「結ネット」を活用している地区もあります。学校でもプリント配布や欠席連絡ができるアプリを導入しています。こうした仕組みを町内会や地区でも導入できれば便利です。

ただ、デジタルが苦手な方もいるので、紙媒体との併用(ハイブリッド)が必要ですが、大学生などには LINE が有効でしょう。施設予約なども含め、誰もが簡単に使える仕組みがあれば一番良いと考えています。

(参加者)

様々な団体でスマートフォンやタブレットなどを使った連絡方法が提案されていますが、一人暮らしの高齢者にとってはハードルが高いのが現状です。そうした方々にも対応できる、簡単な仕組みがあれば良いのですが。

#### ◆ 「地域支え合いマップ」づくりで、防犯・防災に役立つ情報共有をしています

(市長)

一人暮らしの方といえば、大分の火災の件が思い浮かびます。近所の方が日頃から状況を把握していたからこそ、すぐに避難を促すことができました。

デジタル化は便利ですが、それだけに頼って顔も見ない、話もしないのではコミュニティとして機能しません。「あそこのお父さんはどうしているかね」と気にかけるような、日頃からのコミュニケーションも不可欠だと思います。

(参加者)

宮保では社会福祉協議会や民生委員が主体となり、地域支え合いマップづくりを行っています。具体的な作業としては、地区をいくつかのブロックに分けて集まり、紙の地図を囲んで情報を共有します。「あそこの方が亡くなって一人暮らしになった」などの情報を出し合いな

がら、高齢者世帯や気になる方には色別の印を、3歳未満の子どもがいる家庭には別の色の印を付けるなどして、集落ごとの状況を可視化しています。

また、一人暮らしの方に誰が関わっているか、例えばAさん宅にはBさんやCさんがお世話しているといったつながりも矢印で記入し、情報を落とし込んでいます。

プライバシーの問題もあるため扱いは慎重ですが、社協の指導を受けながら年2回実施し、家庭状況の変化などを確認しています。今後の活用方法についても検討中です。

(参加者)

一人暮らしの高齢者が増えており、今年は23軒から30軒になりました。75歳以上の家庭は今後も増えると思いますし、心配しています。

支え合いマップは令和2年から始め、ようやく形になってきました。防犯・防災にも役立つはずですが、まだ我々だけの共有にとどまっています。今後は各町の役員などにも見てもらい、町内で揉んでもらうことで、より良いものにしていきたいと考えています。メンバーにはボランティア、民生委員、福祉協力員、町内会長も入っています。宮保ならではの取り組みです。

(参加者)

プライバシーの問題にも注意しながら、慎重に進めていきたいと考えています。

(市長)

大変素晴らしい取り組みです。私も町内会長をしていた時、民生委員や福祉協力員と定期的に情報交換をしていました。

それを「支え合いマップ」として形にし、地域コミュニティ組織として福祉に取り組んでいるのは素晴らしいことです。

(参加者)

最近、一人暮らしの高齢者宅に買取業者が上がり込む事案がありました。電話で「不要な食器はないか」と言われ、了承すると若い男が訪ねてきて、勝手に2階まで上がりタンスを物色したそうです。結局、時計やネックレスなどを1300円置いて持ち去りました。

近所の世話焼きのお父さんが、県外ナンバーの車と玄関の様子に気づき、写真を撮ってくれました。詐欺まがいの業者でしょう。被害者は少し認知症の傾向がある方でした。

数日前に相談を受け、民生委員さんに連絡して、そのお宅を訪問し、「勝手に人を入れてはダメだ」と注意してもらいました。ただ、相手は口がうまいので、注意してもまた入れてしまうかもしれません。笠間の包括支援センターにも相談して対応してもらっています。

(市長)

最近は何事な事件も多いですね。高齢化が進む中、近所の人がおかしいぞと気づける、見守れる関係性が重要ですね。

(参加者)

新聞がたまっているなど、配達員や検針員が異変に気付くケースもあります。近所の見守りが大切だと実感します。

#### ◆ 防災のためコミュニティセンターに井戸を整備してはいかがでしょうか

(参加者)

コミュニティセンター建て替えに伴い、体育館の横をグラウンドとして利用しています。また、体育館にトイレを新設していただき便利になりました。ただ、体育館は強風や横殴りの雨の際に雨漏りが発生する部分があって、状況を見守っていますので、また相談させていただくかもしれません。

(参加者)

コミュニティセンターに井戸を整備してはどうでしょうか。能登半島地震の際、七尾市では井戸水が生活用水として役立ったという記事を見ました。

黒瀬地区にはまだ井戸があるかもしれませんが、今後建設されるセンターには1か所設置すべきだと思います。上水道が止まった際、井戸があれば助かります。宮保だけでなく、各地区に順次整備していただければ安心です。

(市長)

白山市は簡易水道が多く、上水道や下水管の修繕には時間がかかります。井戸については、現在保有している企業などに登録をお願いし、災害時の協力体制を整えています。

(市長)

本日は貴重なお話を聞いて大変有意義でした。素晴らしい取り組みや、最後にいただいたご意見などについても、今後いろいろと考えながら進めていきたいと思っています。本日は貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。